

## 議会質問

### ～ 第3回定例会 決算等審査特別委員会～

(令和3年9月28日 健康福祉費)

#### ◆がん検診の取り組みについて

Q: 令和元年度から導入した胃がん検診の胃内視鏡検査(胃カメラ検査)の評価を伺う。

A: 胃内視鏡検査の今年度の申込者数が令和2年度を既に上回っている状況で、胃がん検診の受診方法に選択制を導入したことにより、市民の皆様にとって受診しやすくなるという効果が出ている。また、令和2年度の胃内視鏡検査による発見率が0.75%となっており、胃がんの早期発見に一定の効果があったと考える。



#### ◆産前産後の母親の支援について

Q: 育児ヘルパー派遣事業における産後ドゥーラの活用の検討状況を伺う。

A: (子供未来局長) 産後ドゥーラについては、産後の母親に寄り添い、家事や育児を丸ごとサポートしていくだけではなく、子どもと家族全体を支援するという、それぞれのご家庭の事情に応じて、熱意をもって活動されていると受け止めている。育児ヘルパー派遣については、専門的な知識や経験を持った人材を拡充していくことが必要という観点で様々に検討しており、本市の産後ドゥーラへの委託も検討を始めたところである。

\* 産後ドゥーラとは: 民間の認定資格で、産後間もない母親に寄り添って家事や育児など生活に必要な支援をする人のこと

#### ◆その他の主な質問項目

- ・がん検診の受診率・受診勧奨数・未受診者数とコロナ禍の影響について
- ・令和2年度から開始したスマートフォンによる申込者数の推移と評価
- ・がん検診の受診率向上の取り組みとして、スマートフォン活用の受診勧奨(福岡市・千葉市)、複数のがん検診をセットにして受診したくないものを選択する「オプトアウト方式」の導入(福岡市)、東京都立川市の乳がん検診の「受診計画カード」送付の認識と本市のさらなる取り組みについて
- ・国からの通知(5月31日付)により、死産・流産を経験した女性も受診できる産婦健診について十分に配慮した周知広報
- ・オンラインによる産後ケアの申請手続きの早期実現
- ・産後うつ対策、「助産師サロン」の利用状況について
- ・育児ヘルパー派遣事業の利用状況、委託事業者の研修・スキルアップについて
- ・母子保健法の改正による産後ケア(出産後1年の延長・訪問型の実施)の考え方と事業の整理

◎第3回定例会(9月9日)では、子育て環境充実調査特別委員会の委員長報告を行いました。



### ～ 都市整備建設委員会～

(令和3年9月24日)

#### ◆「市営住宅長寿命化計画(第二期)(令和2年度～令和11年度)について

Q: 第一期計画(平成22年度～10年)で建て替えた団地は鶴ヶ谷第一であり、今回の第二期計画では鶴ヶ谷第二のみである。今後10年、20年の耐用年限の対象となる団地名を伺う。

A: 今後20年以内に耐用年限(60年)の対象は小松島・小松島第二・太白・小鶴・西中田・郡山・上原・幸町の8団地である。

Q: 今後20年で耐用年限をむかえる団地の建て替えの検討にあたっては、耐用年限の判断だけでなく、団地の立地の実情によっても状況が異なるため、しっかり調査していただきたい。建て替えの対象とならない団地の老朽化の課題についても検討し、室内の修繕については入居者のアンケート調査等を実施し計画的に進めるべき。

A: (都市整備局長) 修繕に関する入居者のご意見やご要望をお伺いするなど実態の把握に努めるとともに、良好な住環境を確保できるよう、計画的な修繕対応について、合わせて検討してまいりたい。



#### ◆その他の主な質問項目

- ・市営住宅の来客駐車場の増設、エレベーター設置事業について
- ・風呂設備交換事業のこれまでの実績及び募集方法の見直しについて
- ・市負担と入居者の自己負担で行なう室内修繕の対象やカビ問題の認識について



### 皆さまの声をカタチにしました！

#### ■市営住宅の風呂設備交換事業が希望する入居者に整備！ 募集数の拡充と申し込み要件が緩和されました！



市営住宅の風呂設備設置について、議会で取り上げるきっかけになったのは、「入居時に持参した風呂釜が故障し、再度購入しなければならず負担が大きい。お風呂整備を進めてほしい」という、ひとり親家庭の母親の声でした。また、高齢者や障がいの方々からは「浴槽は高さがあり、だんだん入浴ができなくなってきた。安心して入浴したい」という切実な声が多く寄せられました。

その声を通し、平成25年第3回定例会の一般質問で、「長寿命化計画」の風呂設備設置はバリアフリー化の取り組みであり拡充すべきと訴えてきました。

平成27年度からモデル事業として風呂設備交換事業(家賃加算)が始まりましたが、当初は募集数が少なく応募率が11倍以上でした。希望する入居者全員に整備することを求め、募集数の拡充、要件の緩和、多数回落選者・障がい者枠を設けることなど改善を何度も議会で求めてきました。

その後、仙台市は年々募集数を増やし、昨年度・今年度は400戸と大きく拡充した結果、今年度は申し込んだ入居者全員に整備されることになりました。また、昨年度から過年度落選者世帯や身体障害者世帯の優遇措置を設けての募集、今年度からは、申し込み要件だった「風呂設備が15年以上経過していること」がなくなり応募しやすくなりました。これからも、入居者が安心して生活ができるよう市営住宅の環境整備に取り組んでまいります。

